

# 【小学校4年～6年】 非常持ち出し袋を作ろう

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動  
「非常持ち出し袋を作ろう」



短い時間の指導  
での活用

◆ねらい 非常持ち出し袋の必要性を理解し、非常時の備えについて考えることができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 7 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 最近の災害や避難訓練を思い出す。 3 本時のめあてをつかむ。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○写真等の資料を見せ、熊本地震等、最近の災害について振り返る。 ○災害時に備えた持ち物の工夫や備蓄及び非常持ち出し品(袋)の準備が重要なことを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">             ひなんするときに何がひつようか考え、ひじょう持ち出しぶくろを作ろう。           </div>		
展 開 28 分	4 非常持ち出し袋について考える。 ★ 避難することになった時のために、あなたは非常持ち出し袋に何を入れておきますか。 ★ 全てを持って避難することは難しいので、(災害名)が起こることを考えてあなたが袋に入れる物を6つ選んでください。理由も書きましょう。	○児童の自由な意見を引き出す。 ○しばらく考えさせた後、ワークシートで避難時に持ち出す物の例を紹介する。児童が考えた必要な物は追加の枠に記入させる。 ○持てる量にする必要があるため、袋に入れる物を6つ選択させ、その理由も記入させる。(災害種類は地域の実態に合わせる。) ○ペアや班、学級全体で発表させる。 ◎水や携帯食を基本として、メガネや常備薬などそれぞれの状況で持ち出す物が違うこと、また、消費期限のある食べ物など定期的な点検が必要であることを確認する。
ま と め 10 分	5 本時のまとめをする。  6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	◆自分にとって必要な物とその理由を考えようとしている。【関心・意欲・態度】〈観察〉 ◎資料の体験談を読み、備えることが安心につながることを再確認する。また、乳幼児や高齢者がいるなど家族の状況で必要な物が異なることから、非常持ち出し袋の内容を家族などと確認することの大切さを伝える。 ○資料を使い、非常持ち出し袋について家族などと話し合うようにし、事後指導につなげる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

・熊本県 防災ハンドブック(熊本県)

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて



## ○ ひじょう持ち出しぶくろに入れることが考えられる物 【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 着がえ	<input type="checkbox"/> ひも
<input type="checkbox"/> かんづめ	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> けいたいトイレ
<input type="checkbox"/> アメ・チョコレート	<input type="checkbox"/> 手ぶくろ	<input type="checkbox"/> よく使うくすり
<input type="checkbox"/> お金	<input type="checkbox"/> 毛ふ	<input type="checkbox"/> ケガの手あて道具
<input type="checkbox"/> ほけんしょうのコピー	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> カップ・おりたたみかさ
<input type="checkbox"/> かい中でんとう	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ	<input type="checkbox"/> ( )
<input type="checkbox"/> かん電池	<input type="checkbox"/> ライター・マッチ	<input type="checkbox"/> ( )
<input type="checkbox"/> 電池で聞けるラジオ	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/> ( )

## ○ 自分が入れておきたい物とその理由

① ( )	② ( )	③ ( )
④ ( )	⑤ ( )	⑥ ( )
-----		
(理由)		
-----		
-----		

## ○ みんなの発表を聞いて気づいたこと

-----
-----

- このシートを持ち帰って、ひじょう持ち出しぶくろに何を入れるかを保護者などと話し合いましょう。そうすることでさらに安心につながります。ぜひやってみましょう。

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

ひなんするときに何がひつようか考え、ひじょう持ち出しぶくろを作ろう。



### ○ ひじょう持ち出しぶくろに入れることが考えられる物

<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 着がえ	<input type="checkbox"/> ひも
<input type="checkbox"/> かんづめ	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> けいたいトイレ
<input type="checkbox"/> アメ・チョコレート	<input type="checkbox"/> 手ぶくろ	<input type="checkbox"/> よく使うくすり
<input type="checkbox"/> お金	<input type="checkbox"/> 毛ふ	<input type="checkbox"/> ケガの手あて道具
<input type="checkbox"/> ほけんしょうのコピー	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> カップ・おりたたみかさ
<input type="checkbox"/> かい中でんとう	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ	<input type="checkbox"/> ( <b>メガネ</b> )
<input type="checkbox"/> かん電池	<input type="checkbox"/> ライター・マッチ	<input type="checkbox"/> ( <b>ぬいぐるみ</b> )
<input type="checkbox"/> 電池で聞けるラジオ	<input type="checkbox"/> はさみ	<input type="checkbox"/> ( )

### ○ 自分が入れておきたい物とその理由

- ① ( **水** ) ② ( **かんづめ** ) ③ ( **ヘルメット** )  
 ④ ( **手ぶくろ** ) ⑤ ( **電池で聞けるラジオ** ) ⑥ ( **タオル** )

(理由) **水と食べ物は必ずいるとおもったから、水とかんづめをえらびました。**

**ニュースが聞けるようにラジオをえらびました。安全にすごせるようにヘルメットと手ぶくろとタオルも入れます。**

### ○ みんなの発表を聞いて気づいたこと

**みんな水と食べ物をえらんでいるところが同じでした。**

**自分は安全のことを考えてヘルメットとかをえらんだけれど、長くひなんするしたら、着がえもいれた方がよかったかもしれないと思いました。**

- このシートを持ち帰って、ひじょう持ち出しぶくろに何を入れるかを保護者などと話し合いましょう。そうすることでさらに安心つながります。ぜひやってみましょう。

じしん  
地震

つなみ  
津波

すいがい  
水害

どしゃさいがい  
土砂災害

たいふう  
台風

かざんふんか  
火山噴火

いつ起きるかわからない災害に備えて

①いつもの持ち物に災害の時に役立つ物を加えよう

- 自分の住所などの連絡先のメモ     ハンカチ・ティッシュ・マスク
- いつも飲む薬のことを書いたメモ（お薬手帳のコピー）     防犯ブザー

②非常用品（災害が起こったときに必要な物）を準備しよう

備蓄品

災害が起こると、電気やガス、水道がこわれてしまい、それらがストップしてしまうことがあります。そのため、災害があっても数日（3日間くらい）は自分で過ごせるように必要な物を備えておくことが大切です。

- レトルト食品     飲料水
- カセットコンロ     ラップ
- 紙皿・紙コップ     ビニール袋
- 工具セット     ガムテープ     簡易トイレ

非常持ち出し品

災害のため家を離れる時に持ち出す物です。安全に早く逃げられるよう、両手が自由になるリュックサックなどに持てる量を入れておきます。（非常持ち出し袋）

- お金     飲料水     缶詰や乾パン
- かい中電灯     電池で聞けるラジオ
- ヘルメット     着替え
- 歯ブラシ     薬のメモ     タオル

レトルト食品や飲料水などはいつも多めに買って置いて、古いものから使っていきと、いつも新しい物を備えておくことができます。定期的に確認しましょう。

※熊本地震のとき避難生活をした益城町の小学校の子どもたちに聞いてみました

- ・車の中で生活をしていたので、不便でした。食べ物と水は絶対にいると思いました。
- ・家にいつもカップめんを買って置いておくことにしていたので、助かりました。
- ・とにかく情報を知りたかったので、ラジオは準備しておくよかったと思いました。
- ・夜が暗くて不安でした。かい中電灯をつけると安心しました。



【提供：地震調査研究室推進本部】

家族など、一緒に生活しているみんなで何を考えるか考えておくことが安心につながります。高齢者や小さい子どもがいる場合などで中身はかわります。



【提供：地震調査研究室推進本部】

# 【小学校4年～6年】防災マップを見てみよう

## ◆カリキュラム・マネジメントの視点

社会「水害からくらしを守る」  
理科「流れる水のはたらき」



学級活動  
「防災マップを見てみよう」



学校行事  
「水防避難訓練」

◆ねらい 防災マップ（ハザードマップ）の意味と使い方を知り、日ごろからの備えを考えることができる。

## ◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導入 10分	1 心のケアを受ける。（本手引P2参照） 2 これまで学習した川のはたらきや水害について振り返る。 ★ 災害から町を守る対策にはどんなものがありますか。 ★ 私たちの住んでいる地域には、どれくらいの災害の危険性があるか知っていますか。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○これまで学習した水害や川の水のはたらきについて振り返る。 ◎ <u>河岸工事やダムの写真を見せ、川から水が溢れないように対策しているが、それを超えることもあることを確認する。</u> ○自分たちの住んでいる地域の河川の状況で知っていることを出し合わせたり、過去の災害を確認したりする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分たちが住んでいる地域の防災マップを見て、自然災害への備えについて考えよう。</div>		
展開 25分	3 防災マップの意味と使い方を知る。 ★ 防災マップを見て、どんなことが分かりますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             ① 「自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水や土砂災害の危険性」              ② 「自宅周辺や通学路周辺の避難場所」           </div>	◎災害について調べる方法に「防災マップ」があることを伝え、入手方法も教える。 ◎防災マップには、災害の想定範囲や浸水の深さ、避難場所等が記載されていることや災害の大きさにより災害想定範囲が大きくなることをおさえる。 ○地域の名所やよさなどについても確認する時間を設ける。 （①②を見つけ、マーカーで印をつけさせる。） ◎ <u>非常持ち出し品を用意したり、避難場所や避難経路を確認したりすることの大切さを教える。</u> （避難経路をマーカーで塗りながら確認する。） ◆防災マップについて理解し、日ごろの備えについて考えようとしている。 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
まとめ 10分	4 日ごろから、備えておくべきことを考える。 ★ 災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。 5 学習して分かったことを確認する。 6 心のケアを受ける。（本手引P2参照）	◎ <u>家族等と一緒に避難経路や非常持ち出し袋を確認させることで事後指導につなげる。</u> ○「このように備えておくと安心だね。」という声かけを行う。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

## 活用資料等

- ・防災マップ（ハザードマップ）を各市町村HPよりダウンロード
- ・学校防災教育指導の手引P11～P15
- ・非常持ち出し袋の実物
- ・防災ハンドブック（熊本県）P9～、P26～

# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて

① 防災マップを見て、気付いたことを書きましょう。

② 自然災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。

③ 今日の学習の感想を書きましょう。

④ 家族などと避難経路や非常持ち出し袋などを確認して感想を書きましょう。



【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

## ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

自分たちが住んでいる地域の防災マップを見て、自然災害への備えについて考えよう。

### ① 防災マップを見て、気付いたことを書きましょう。

- 川の近くが氾濫して、洪水になるかもしれない。
- 低い土地では浸水するかもしれない。
- 家の近くのがけが崩れるかもしれない。
- 高潮や津波が起こるかもしれない。
- 火山が噴火したら、火山灰の影響を受けやすい。
- 自分の住んでいる地域では、災害が起こるかもしれない場所がたくさんあった。
- 学校が避難場所になっていることが分かった。

### ② 自然災害に備えて、日ごろからどんなことを備えておけばよいでしょうか。

- 自分の家から避難場所までの道を確認しておく。
- 非常持ち出し袋を準備し、定期的に中身を点検しておく。
- 保護者等との連絡方法や避難方法を話し合っておく。
- 大雨の時は近くの川の水位危険度レベルを確認し、どんな行動をとる必要があるか考えておく。

### ③ 今日の学習の感想を書きましょう。

- 通学路の途中にがけ崩れが起こるかもしれないところがあったので、いつも気を付けておこうと思う。
- 防災マップに書いてある災害は想定だから、それ以外のことにも注意しておこうと思った。

### ④ 家族などと避難経路や非常持ち出し袋を確認して感想を書きましょう。

私の家にはまだ小さい赤ちゃんがいるから、非常持ち出し袋には紙おむつや粉ミルクを入れました。話し合いの中で、避難するときは長靴ではなく、普通の靴の方が歩きやすくなると教わりました。みんなで避難場所を確認できてよかったです。



【提供：防災ハンドブック（熊本県）】

# 【小学校4年～6年】 我が家の防災対策をしよう

◆カリキュラム・マネジメントの視点

学校行事「避難訓練」



学級活動「我が家の防災対策をしよう」



道徳「生命尊重」

◆ねらい 災害発生時の危険を想定し、事前の防災対策について考えることができる。

◆展開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導入 10分	<p>1 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p> <p>2 自然災害について考える。 ★ みなさんの家の近くではどのような災害が起きる可能性がありますか。</p>	<p>○児童の心身の状態に十分配慮する。</p> <p>○自宅周辺で起こりそうな災害についてワークシートを参考に考えさせる。</p> <p>○自然環境に関係なく、地震や雷、台風等の危険があることにも気付かせる。</p>
我が家の防災対策について考えよう。		
展開 25分	<p>3 自然災害への備えについて考える。</p> <p>(1) 台風及び土砂災害の備えについて知る。</p> <p>(2) 地震発生時の危険について考える。 ★ 地震が起こった時、家の中では、どんな危険があるか考えよう。</p> <p>(3) 自分や家族等でできる地震対策について考える。 ★ 我が家でできる地震対策にはどんなものがあるか考えよう。</p> <p>①一人学び ②グループ学習 ③全体発表</p>	<p>○ワークシートを活用し、台風及び土砂災害の備えについて知るとともに、地震災害対策を考えるためのイメージを持たせる。</p> <p>○<u>自宅にいる時間が1日のうちで最も長い</u>ため、<u>地震に遭う可能性が一番高い場所であることを理解させる。</u></p> <p>○<u>自然災害の被害は、備えておくことで防ぐことができることが多い</u>ことに気付かせる。</p> <p>【危険に備える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具や家電にストッパーを付けたり、倒れても影響がない場所に移動させる。</li> </ul> <p>【備蓄をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生後3日間分の備えが必要である。</li> <li>・自分用の非常持ち出し袋を用意しておき、すぐに持ち出せる場所に置いておく。</li> </ul> <p>【事前に話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害に応じた避難場所を決めておく。</li> <li>・避難経路上の危険箇所についても話し合っておく。</li> </ul> <p>◆災害発生時の危険を想定した備えを行おうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】〈観察 ワークシート〉</p>
まとめ 10分	<p>4 災害に備えた対策についてまとめる。 ★ 家族等で必要な備蓄品や集合場所を話し合ってみましょう。</p>	<p>○災害への備えの重要性について、まとめるとともに、保護者等と話し合わせることで事後指導につなげる。</p>
	<p>5 心のケアを受ける。(本手引P2参照)</p>	<p>○児童の心身の状態に十分配慮する。</p>

活用資料等

- ・「みんなで防災！ガイドブック」(熊本県危機管理防災課 H24)
- ・保存版「防災ハンドブック」(熊本県危機管理防災課 H28)



# ワークシート

( ) 年 ( ) 組 ( ) 号 名前 ( )

めあて

①あなたの家はどんな場所にありますか。



山・がけのそば



海のそば



川のそば



火山のそば

その他( )

②台風や土砂災害の備えについて知ろう。

## 【台風】



- ・窓のそばからなるべくはなれる。特に寝るときは注意する。
- ・窓ガラスに飛散防止のフィルムをはる。
- ・雨戸やシャッターがある場合は閉める。
- ・物が飛んでいかないよう家のまわりを普段から片付けておく。

## 【土砂災害】



- ・白ごろから、がけから離れた部屋や2階で過ごす。
- ・危険を感じたら避難する。外に出て避難できない時は、自宅内の山側(斜面)の反対側または2階へ避難する。

③地震について考えよう。

どんな危険がありますか	対策を考えよう

④必要<sup>ひつよう</sup>と思う<sup>おも</sup>備蓄品<sup>びちくひん</sup>をチェックして、家族<sup>かぞく</sup>など<sup>かくにん</sup>と確認<sup>かくにん</sup>しよう。

**食料品**

- 飲料水<sup>いんりょうすい</sup>
- カップみそ汁<sup>しる</sup>
- レトルト食品<sup>しよくひん</sup>  
(ごはん・おかゆ<sup>など</sup>)
- インスタントラーメン



**生活用品**

- 給水用ポリタンク<sup>きゆうすいよう</sup>
- カセットコンロ
- ティッシュペーパー
- ラップフィルム
- 紙皿・紙コップ<sup>かみざら かみ</sup>
- 携帯用カイロ<sup>けいたいよう</sup>
- 簡易トイレ<sup>かんい</sup>
- ビニール袋<sup>ぶくろ</sup>
- 水不要のシャンプー<sup>みずふよう</sup>
- 生理用品<sup>せいりようひん</sup>
- 工具セット<sup>こうぐ</sup>
- ほうき・ちりとり
- わりばし ※自分で考<sup>かんが</sup>えてみよう
- ロープ  ( )
- 長靴<sup>ながぐつ</sup>  ( )
- 雨具<sup>あまぐ</sup>  ( )

(きりとして ランドセルなどに入れて もっておきましょう)

⑤家族<sup>かぞく</sup>など<sup>そうだん</sup>と相談<sup>そうだん</sup>して、集<sup>しゅうごう</sup>合<sup>ごう</sup>場所<sup>ばしょ</sup>を決<sup>か</sup>めて書<sup>か</sup>きましよう。



【地震<sup>じしん</sup>の時<sup>とき</sup>】

【風水害<sup>ふうすいがい</sup>の時<sup>とき</sup>】

【その他<sup>た</sup>の災<sup>さい</sup>害<sup>がい</sup>の時<sup>とき</sup>】

●災<sup>さいがい</sup>害<sup>がい</sup>の種<sup>しゆるい</sup>類<sup>れい</sup>によつて避<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>する経<sup>けいろ</sup>路<sup>ろ</sup>も相<sup>そうだん</sup>談<sup>だん</sup>しておきましょう。

●避<sup>ひ</sup>難<sup>なん</sup>する経<sup>けいろ</sup>路<sup>ろ</sup>に危<sup>きけん</sup>険<sup>けん</sup>な所<sup>ところ</sup>はないか家<sup>かぞく</sup>族<sup>ぞく</sup>など<sup>そうだん</sup>で相<sup>そうだん</sup>談<sup>だん</sup>しましよう。

【イラスト：防災ハンドブック（熊本県）より】

# ワークシート（記入例）

（ ）年（ ）組（ ）号 名前（ ）

めあて

我が家の防災対策について考えよう。

## ①あなたの家はどんな場所にありますか。



山・がけのそば



海のそば



川のそば



火山のそば その他（ ）

## ②台風や土砂災害の備えについて知ろう

### 【台風】



- ・窓のそばからなるべくはなれる。特に寝るときは注意する。
- ・窓ガラスに飛散防止のフィルムをはる。
- ・雨戸やシャッターがある場合は閉める。
- ・物が飛んでいかないよう家のまわりを普段から片付けておく。

### 【土砂災害】



- ・白ごろから、がけから離れた部屋や2階で過ごす。
- ・危険を感じたら避難する。外に出て避難できないときは、自宅内の山側(斜面)の反対側または2階へ避難する。

## ③地震について考えよう

### どんな危険がありますか

- ・ガラスが割れる。
- ・割れたガラスを踏んでけがをする。
- ・家具が倒れてきたり、移動してきたりする。
- ・家のドアが開かなくなって閉じこめられる。
- ・停電する。

### 対策を考えよう

- ・ガラスには飛散防止フィルムをはる。
- ・常にスリッパや靴を室内に準備しておく。
- ・家具が倒れてこないように固定しておく。
- ・寝室には大きな家具をおかないようにしておく。
- ・家具などで出口をふさがないように家具向きや配置を工夫しておく。
- ・懐中電灯などを準備しておく。

④必要ひつようと思う備蓄品おも びちくひんをチェックして、家族かぞくなどと確認かくにんしよう。

食料品

- 飲料水いんりょうすい
- カップみそ汁しる
- レトルト食品しよくひん  
(ごはん・おかゆ等)など
- インスタントラーメン



生活用品

- 給水用ポリタンクきゆうすいよう
- カセットコンロ
- ティッシュペーパー
- ラップフィルム
- 紙皿・紙コップかみざら かみ
- 携帯用カイロけいたいよう
- 簡易トイレかんい
- ビニール袋ぶくろ
- 水不要のシャンプーみずふよう
- 生理用品せいりようひん
- 工具セットこうぐ
- ほうき・ちりとり
- わりばし※自分で考えてみよう
- ロープ  ( )
- 長靴ながぐつ  ( )
- 雨具あまぐ  ( )

(きりとって ランドセルなどに入れて もっておきましょう)

⑤家族かぞくなどと相談そうだんして、集しゅう合場所ごうばしょを決かめて書かきましょう。



【地震じしんの時とき】

- ・ 近くの小学校の体育館

【風水害ふうすいがいの時とき】

- ・ 高台にある公民館

【その他の災害たさいがいの時とき】

- ・ 津波等が考えられる。

● 災害さいがいの種類しゆるいによって避難する経路ひなん けいろも相談そうだんしておきましょう。

- ・ 地震の後には余震に備えて、ブロック塀のない〇〇道路を通過して避難するようにする。
- ・ 地震の後には津波が来るかもしれないから、〇〇山方面に向かって避難するようにする。
- ・ 大雨の時(川が増水したとき)は、〇〇川が氾濫するかもしれないから、〇〇方面の道路を通るようにする。

等

● 避難する経路ひなん けいろに危険な所きけん ところはないか家族かぞくなどで相談そうだんしましょう。

- ・ ●●には崖崩れの可能性がある斜面がある。
- ・ ○○には、用水路が多いから危険。
- ・ ◆◆は川の近くで危ない。
- ・ □□は崩れてきそうなブロック塀や建物がある。

等

【イラスト：防災ハンドブック（熊本県）より】